

## あとがき

本書『水戸下市御用留(九)』は『水戸下市御用留』の第一分冊(第八分冊の件名目録にあたります。この刊行をもって『水戸下市御用留』は完結したことになります。一九九一年三月に第一分冊を刊行して以来、途中『中崎家文書目録(1)』の刊行等があり間があきましたが、第一分冊を刊行以来、十一年目でようやく「水戸下市御用留」は完結をみることができました。詳しい構成については解説に載せてありますのでそちらをご覧ください。

この史料集の編集を途中にされて河内八郎先生が急逝されたのは一九九〇年五月でした。そしてその志を継いだ学生はじめ卒業生と一緒に、素原稿を元に翌年の一九九一年三月に第一分冊をとりあえず、発行することができました。その後、途中挫折しかけたこともあり、最後まで刊行できるとは思っていなかったというのが今の正直な気持ですが、もっといいものを、という焦りも自分の中であつたことも事実です。少なくとも第一巻から第七巻まで読み返してみると誤字脱字があつたりして、お恥ずかしい限りです。しかし、この十一年で大学自体も変化し、私自身の業務も煩雑になり、仕事の合間に行うのがだんだん無理ができました。それでも時間外を利用しながら、力不足の私がかこまでたどり着くことができたのは、長谷川伸三先生をはじめ歴史学の大学院生や学生のご協力のおかげであると感謝の念でいっぱいです。そして何より故河内先生の何事にも熱心に取り組んでいた姿が常に念頭にあつたらだと思っております。しかも一九九一年四月に赴任された後任の長谷川教授の力強いバックアップと一九九一年度からの大学院生の存在も大きかったことは事実です。また解説原稿に書かれた文字に元氣付けられ、また卒業生及び外部の研究者の方々からの声援もあつたからであり、これが附属図書館及び歴史学教室の成果として地域の研究に役立てていただけたら幸せです。

とくに今回の編集は困難を極めました。第八分冊まではとりあえず河内先生によって添削された素原稿があつたけれど、今回は件名目録という性格が異なるため、全面的にやり方を変え、解説も書いてくださった山下堅太郎さんが編集についてアドバイスを行っ

ていただきました。巻末に記した担当者が記事の内容を一つ一つ読み取って発給関係等を確認していきました。しかし、題名をつけていくという作業はなかなか統一が取れなくて二年以上の期間が過ぎてしまい、附属図書館や当時の大学院生及び学生にも大変ご迷惑をおかけしてしまい、申し訳なく思っております。しかし、山下さんが忙しい仕事の合間に、アドバイスをくださったりして編集を進めていただきました。ただ心残りなのは件名目録についてチェックしきれず見切り発車してしまった感は否めないのが残念です。しかし、これからもデータの整備をしていけば、今後の「町方御用留」の研究に必ず役に立つことだろうと期待しています。なお、当初刊行予定に入れていた「林方御用留」（全五冊）は館林藩及び日光奉行関係のものだとわかり、今回のものとは性格が大きく異なるので「水戸下市御用留」には入れませんでした。なお本巻編集上の不備にお気づきの際は、その旨ご指摘・ご叱正下さるようお願いいたします。

今回の発行にあたり、附属図書館長・職員の皆様のご理解を感謝するとともに、原稿の遅れなどで、限られた期間に製版・印刷を行って下さったコトブキ印刷株式会社の担当の皆様には感謝いたします。強力な支えになってくださった長谷川伸三先生、原稿作成及び編集についてまとめてくださった山下堅太郎さんに深く感謝いたします。また今回、目録作成及び校正作業に携わってくださった青木祐一さん、北島隆行さん、高村恵美さん、堀越幹也さん、鈴木邦昌さん、金田大輔さん、萩谷幸子さんに感謝する次第です。

（木戸之都子）